

耳原総合病院

看護師42人が入職



＼新たな気持ちで出発！！／



2025年4月1日入職を終え、看護師（新卒39人既卒3人）を新に迎えました。

新卒看護師は、社会人として初めての経験で緊張と期待で胸を膨らませていたようです。

4月7日からは、看護部オリエンテーションが始まりました。専門職としての知識・技術・態度を身につける研修です。感染対策研修では、自分たちの対応が患者のいのちに直結することや、医療安全研修では、報告・連絡・相談の重要性などを学びました。環境整備の研修では、実技演習をした後、病棟で実際に環

境整備を行いました。集合研修を受けたあと、2週間ずつ3クール、各病棟や外来、他の事業所への研修を今年から実施しています。

実際の職場に入る中で、「自分の理想とする看護師像を考えることができた」、「患者の立場に立ち、考えることの重要性を感じた」。産婦人科病棟で、「実習で経験できなかったことを経験できた感動した」など、さまざまな感想がありました。

患者を生活背景から捉えることの重要性を学ぶことができています。社会人として、専門職業人としてまだまだ始まったばかりですが、1日1日成長している姿を感じることができます。

看護部の教育理念には、「3つの視点と4つの優位に立った看護師を育成する」とあります。

看護師は、患者を疾病だけでなく、生活背景から看ることが重要であると考えています。看護倫理に基づき、「誰のため」「何のために」を常に意識しながら、多職種と連携し、地域医療を守ることができるよう日々の成長を期待しています。

（耳原総合病院 本多比佐代）

堺メーデー

平和学習会を開催



5月1日は、労働者の祭典「メーデー」。

今年の堺メーデーには、みみはらグループから98人が参加。午後は平和学習会を行い「働くこと」「平和の大切さ」を47人の参加者で学びました。

平和学習会では、最初に「メーデーとは」について学んだ後、3月・4月に行った「国会要請行動」報告を2人の代表が行いました。その後、中村哲医師の「ドキュメンタリー」を上映し、いのちと平和の大切さについて学びました。

休憩後は、ジャーナリストの西谷文和さんから「紛争地から見た憲法9条ガザ、シリア、ウクライナ、大阪の今」と題してご講演いただきました。

ストの西谷文和さんから「紛争地から見た憲法9条ガザ、シリア、ウクライナ、大阪の今」と題してご講演いただきました。

何度モイスラエルに赴き、最近もガザ近くに行かれた西谷さんのお話は、リアルで胸に迫るものでした。爆撃によってケガをした子どもや、ガレキが広がる街の映像を見る中で、親しい人の命が日々奪われていく理不尽さと恐怖が迫りました。現在も戦争が続いていることを思うと胸が締め付けられます。

一方、イスラエルではハマスへの報復をおおるSNSがあふれ、世論が誘導されているそうです。

西谷さんのインタビューでは、一般の市民がハマスに殺された人質のために「戦争が必要だ」と語っていました。戦争反対を訴える人もいますが少数になっているようです。

こんな戦争がなぜ起こるのか、歴史的な経過に比べ戦争で儲かる人がいるからだ、と西谷さんは言います。戦争が起これば軍需産業、その株を持つ大富豪、武器の生産国が儲かります。そのためメディアを利用して国民をあおり、戦争を正当化していくとのことでした。そのなかで、報道された情報を鵜呑みにせず冷静に分析すること、AかBかで対立するのではなくCという解決策があるはずと考えることが大切だと強調されました。

参加者の感想から

● 中村医師の映像をみて戦争の中でも用水路を作り、飢餓をなくすために作物をつくり、戦争を止める方法を考えているのが素晴らしいと思った。

● 戦争はしてはいけないと思っているが、講演を聞いてあらためて実感した。政治のことはあまり分らないが、お金の使い方や知事の問題など知ることができた。選挙に行かないといけない理由を実感できた。

● （西谷さんの）実際の現地取材（映像）と説明がとてもリアルでした。デマに流されない視点を持たないといけないと思います。「AかBだけでなくCがあるかもしれない」という言葉が印象的でした。人生においてどんな場面でも活用できるので覚えておきたいと思いました。